

会員を増やして団結を 新会長に砂子靖子さん

広酪西部ミルク会(東方田博子会長)は総会を開催し、十名が参加した。

西部ミルク会では、フラワーアレンジメントや先進地視察研修での勉強会等、活発な活動が行われている。近年会員数が減少し、現在の会員数は二十名となる状況の中、積極的な会員勧誘が行われている。

総会では、平成二十三年度活動報告及び収支決算報告・

平成二十四年度活動計画及び収支予算案が承認され、新たに砂子靖子さん、渡辺沢子さん、三戸郁代さん、柿原

ちとみさんの四名が役員に選任され、後日、役員会の互選で砂子靖子さんが会長に選任された。

総会終了後は西中晃参事(広酪)が、酪農情勢やミルク1点検の結果を伝え、ミルク1点検では五十五戸中五十二戸が受検状況を報告、改善指摘に疑問があれば乳質改善係が再度対応するとして、「牧場経営には女性のパワーが欠かせない。頑張っ



て頂きたい」とエールを送った。

第四十六回総会を開催 新部長に溝辺博子さん 副部長に田辺信美さんを選出

甲奴郡酪農女性部(池田月美部長)は、第四十六回総会を開催し、十三名が出席した。上程した平成二十三年度事業報告並びに決算書、平成二十四年度事業計画及び予算案は、全てを可決承認した。

池田部長は「やっと桜が咲きました。昨年も色々大変でしたが、今年も飼料や燃料の高騰で次から次と私達を苦しめています。それでもみんなで力を合わせて酪農を頑張っ

「広酪職員
の顔や仕事が見えない。指導がない」、「ヘルパー事業に問題が起き過ぎてヘルパー利用が不安である」、「今も県酪体質である。」等、組合運営に対する厳しい指摘があった。
専務からは「女性部が各地区のリーダー的な存在として活躍して頂きたい。何処に行っても女性の力は大きい。組織への影響力も大きい。元気の素は女性であり、組合運営に対する協力をお願いする」と期待を込められた。

総会後は甲奴郡酪農女性部の会合に出席の隅屋寒三専務(広酪)から、三月の「ひろらく女性グループ連絡協議会」による「らくのうかあちゃんの日頃の疲れを癒す会・意見交流会」参加への御礼と最近の酪農情勢の説明を聞いた。

質疑では「広酪は生産者に対して要望するばかり。生産者に気持ちを持って貰えることはないのか」、「今後、高齢化が進み廃業等が影響し広酪の

昼食を交えて会話を進め、和気藹々と和やかな時間もあつという間に閉会となり、本年度事業計画に掲げる「花いっぱい美化運動」のミニバラの鉢植え、「牛乳・乳製品消費拡大運動」の牛乳とチーズを全戸に記念品として配布した。



福山地方酪農協議会

4/5 たん熊



大仙祭で御霊を供養
福山地方酪農協議会(山本芳紀会長、会員七名)は、「大仙祭」を開催し、乳用牛の御霊に対しての慰霊と、健康で生乳生産に励んでくれることへの感謝と安全を祈願した。そのあと開いた親睦会では、福山倉庫の存続等の話題が持ち上がった。

広酪からは樽好美子所長(東部事業所)が酪農情勢を交えて生乳生産状況を説明し、酪農研修会では市川貴英所長代理(全酪連三次駐在員事務所)から、サンバエ対策や購買及び輸入乾草の情勢が報告された。

上下町酪農組合

4/20 東部事業所

総会・優秀精液配布と飼養管理研修等の事業方針を決定

上下町酪農組合(伊達公一組合長)は、平成23年度総会を開催。組合員8名が出席し、全議案を承認した。

今年度の事業計画には、優秀精液配布事業を通じた「牛群能力の向上と乳質向上」、「飼養管理の研修会」等を事業方針に掲げた。出席者からは「年に一度は府中市役所を訪ね、市長や担当課長と酪農事情に関して対談することで現状を知ってもらいたい。平素から顔見知りになる事が大切」との意見が上がり、今後、開催に向けて検討することとした。

府中市からは、「高齢化に対してどのように取り組んで行くか」、「将来を見据えて補助金の使い道をどう活用したか明確にして欲しい」と伝えられ、組合員らは「県共進会、アカバネ病予防対策等にも取り組んで行かなければならない。若い世代が多い上下町酪農組合だけにビジョンをもって意欲的に事業を展開して行きたい」と気持ちを新たにしていた。



甲奴郡酪農組合

4/24 東部管内

役員
管内バルクを清掃

甲奴郡酪農組合(伊達薫組合長)は、今年のスローガンに「乳質ペナルティ目標五回以内」と定めた。

この一環で、役員七名は三班に分かれ、これから夏に向けて、バルククーラーの冷却能力低下を防ぐため、冷凍機等を持参のコンプレッサーを使用して、丁寧に清掃した。

併せて、乳質改善事業として、PLEテスターを全戸に配布した。巡回終了後は東部事業所に役員全員が集まり、昼食を交えて状況報告をし、「バルククーラーの夏場対策にひとまず安心出来た」と安堵した様子であった。



七十四名 桜花満開に酔いしれる 行政への支援要請を行う



北広島町酪農団体連絡協議会(柿原徳則会長)は、会員家族や関係団体から七十四名が参加し、西部事業所前の満開の桜の下で交流会を盛大に開催した。

柿原徳則会長は「先般、酪農窮状支援の要請書を町に対して提出した。既に新年度予算が成立しているが、何らかの支援を行いたいと回答を受けた」と報告が行われた。

来賓の山本武組合長(広酪)は、日頃の組合事業への協力と感謝に加えて、「今年度の生乳生産量は前年度実績以上を目標としている。生乳生産基盤維持を図るため、組合も出来る限りの支援を行う構えであり、皆さんも頑張つて戴きたい」と挨拶した。

例年、花見会は山県家畜診療所の歓送迎会を兼ねており、木下啓三所長から新たに赴任された堀香織・篠塚康典獣医師二名が紹介された。参加者は日頃の作業や乳質等の話題に会話が弾み充実した一日を過ごした。

総会と交流会を開催 新会長に泉秀利氏選任

あきたかた酪農振興会(楨野大樹会長)は、高宮ミルクボーイ倉庫において総会を開催し、会員他家族二十二名が参加した。上程した平成二十三年度事業報告並びに会計報告、平成二十四年度事業計画案並びに予算案は全て承認され、役員改選に伴い新役員四名が選出され新会長に泉秀利氏を選任した。

交流会は、隅屋寒三専務(広酪)の乾杯の音頭で和やかに始まり、木下啓三所長(山県家畜診療所)から四月の人事異動に伴い、新新たに赴任された堀香織さん、篠塚康典氏が紹介された。

会員の一人からは「桜の木をもう少し植えよう」という意見も出され、最後まで会話が途切れることなく、会員と家族の皆さんが元気になる、新年度のスタートにふさわしい交流会となった

最後に、楨野会長は職の退任にあたり、今日までのお礼と共に「新体制のもとで更に力を合わせて頑張つて行きましょう」と締めくくられた。



● 庄原地域酪農振興会

4 / 26 比婆観光センター本店

酪農家の絆を大切に、今後とも頑張ろう！

庄原地域酪農振興会(林智行会長)は、平成 23 年度総会を開催し、会員 13 戸 17 名に加え、庄原市、県北部畜産事務所、JA 庄原の担当者らが出席した。広酪からは山本武組合長の他、西中晃参事、中山篤志課長(事業推進課)、竹ノ内寛治主任(事業推進課)が出席した。

林会長は「当会は 16 戸の会員と実業高校で構成している。随分会員も減少してきたが、力を合わせていかなければ活動の継続も困難となる。平日頃から絆を大事にして頑張ってください」と挨拶し、庄原市からの手厚い助成支援について感謝の言葉を述べられた。

藤井司所長(北部畜産事務所)からは「他の組織の会合に比べて、庄原地域酪農振興会には若い方が多い」として、驚きと今後への期待を交え挨拶された。その他、同事務所担当者から、飼養衛生管理区域や頭数調査の依頼、白血病のまん延防止の情報提供が行われた。

山本武組合長は、今年度の乳価交渉はキロあたり 2 円以上の値上げ要求を含めた中国生乳販連の情勢、TPP 反対運動を積極的に継続していくことが伝えられた。

西中参事は、平成 23 年度の生乳生産量の実績、乳質ペナルティの用途等を含めた最近の酪農情勢を報告した。

庄原市からは、平成 23 年度の要望活動に対して、その回答を纏めた書面をもって説明され、加えて、新たに広酪の行う自家育成事業と連動した事業内容を含む平成 24 年度補助事業の説明があった。

総会議事は、平成 23 年度事業報告及び収支決算、平成 24 年度事業計画(案)及び収支予算(案)を上程し、原案どおり可決承認された。事業計画には、農業共済組合が実施する牛舎消毒の助成、庄原メンバーズクラブへの後継者活動の助成、会員減少を踏まえて、親睦研修旅行を含めた年 3 回の研修会を予算化し、庄原市全域の周辺組織をまとめた庄原市酪農連絡協議会や広酪の研修会に参加することとした。

総会後は、昼食を交えた関係機関との活発な意見交換を行い、懇親をしっかりと深めることができた。



● 西部楽酪会

4/27 西部事業所

懇親会では「育成牛の管理」が話題となり、特段の飼養管理は行っていない酪農家が多かったが、井上会長は「私に子どもはいないものの、子どもを大きく成長させるためには粗末な食べ物とは与えないはず。牛も同様である」と述べられ、参加者はなるほどと改心されていた。会員は今後予定する東部管内青年部との交流を楽しみにされている。



西部楽酪会(井上正芳会長)は、花見会を開催し、会員家族ら十九名が参加した。今回新たに山県家畜診療所に配属された堀獣医師と、松本牧場の従業員も加わり盛大に開催した。

井上会長は西日本酪農青年女性会議主催の酪農発表大会の

秘訣は
我が子を育てるように！